

令和3年度 第3回市場運営審議会 意見の概要

議題1:第2回審議会の質問への回答について(①市場会計、②民営市場)

<p>島田 薫 (会長)</p>	<p>●配布資料は卸売市場について調査されており、分かり易く書かれていて、感謝いたしております。新しい委員の方も多いので、改めて松戸市の卸売市場が置かれた特殊な状況をご理解頂けると思っております。また、重要なのが、年間の取引高や経費のことで、誰が見ても分かるようになっております。</p> <p>【小林委員のご質問】</p> <p>①松戸市の税金から施設会社に使用料として支払う費用や内訳に、いくら前年度より経費を削減しても、それを施設会社に支払うことができないとは、合理的ではない。仲卸が増えることは予測しがたい。</p> <p>②松戸市卸売市場はなんといっても、施設会社が運命を握っている。松戸市の未来のためにも良好な連携を続けて欲しいと願っている。</p> <p>【後藤委員のご質問】</p> <p>①公設か民営かの議論は終わっていると理解している。戦後の混乱期にできた卸売市場法が大幅に改定されるのは時間の問題となっている。しかし、松戸市の消費者、生産者、市場関係者、小売店の幸せを優先し、この審議会が市議会を巻き込んで新しい挑戦をしないと未来がないと思っている。</p> <p>②民営化した市場の現状はとても参考になる。特に民間活力を導入するのはよいアイデアといえる。松戸市のランドマークとなっている市場は、広大な土地を無駄にせず松戸市の市民のニーズにこたえることが優先となろう。</p>
<p>小林 弘明 (副会長)</p>	<p>●第2章に関して:県内公設市場を運営するにあたって各自治体が負担する公費の数値を調査・分析していただきありがとうございます。民設公営という南部市場の特性を念頭に置きつつも、本市場の運営にあたって過大な公費が投じられているのではないかと懸念が払拭される極めて重要な情報が提供されたと思います。</p> <p>●第3章に関して:高度経済成長期に始まる本県卸売市場の歴史と南部市場の民設公営化への流れを解説していただきありがとうございます。このように過去の経緯をおさらいすることも有益かと思えます。</p> <p>●肝心の民営化について、そのメリットとデメリットなど論点は十分に整理していただきましたが、「民営化すると将来市場がなくなるのでは？」という不安にどう応えるのか、難しい問題であると感じます。</p>
<p>矢野 裕児 (学識)</p>	<p>●民営化についての議論は確かに必要だが、実際に導入することは難しいと考えられる。</p> <p>●例えば、藤沢市地方卸売市場の例が示され、民営化によって取扱額が増えたとされているが、4、5年前にヒアリングした時は、少なくとも進出した国分と卸売市</p>

	<p>場の連携はほぼない状態であった。すなわち空いている用地を、他の用途として利用したという事例に近い。市場用地内に他の用途を入れ、有効に利用するという場合は民営化もあるが今回は該当しない。</p> <p>●施設整備に対して、直接、市が投資することは難しいことは、理解した。①の方針に向けて、卸売業者が展開する場合に、補助金等の施策は難しいのか。</p> <p>⇒(松戸市)</p> <p>現時点で具体的な施策は検討しておりません。</p>																																																																																												
大橋 唯男 (学識)	<p>●消費者の買い物行動は、広意味のリモート化の進行により、いずれくるポストコロナ時代には、以前とはかなり異なって定着すると思われます。</p> <p>●市場は人口50万人都市として重要かつ必要な都市施設です。しかし、市場を取り巻く環境は大きく変化していますから、市場の規模的取扱量を維持することは、より大きな努力を要することになるかと思われます。</p> <p>●市場法改正を機にコロナ禍を一つのチャンスにとらえ、第3者に販売を強化する方法を検討してはどうか。例えば、ノウハウの確立している市場まつりを月例化し、さらに週間化を進め市民マーケット的な小商圈を深耕することで、利益を確保することを検討してはどうか。</p>																																																																																												
川村 博文 (生産者)	<p>●取扱高が減っている現状を分析するため、現在まで生産物の産地の内訳として、市内か市外か県外かまた品物や量や金額などの推移を知りたい。</p> <p>【参考：産地別取扱金額・割合】卸売業者事業報告書より</p> <table border="1" data-bbox="392 1149 1390 1447"> <thead> <tr> <th></th> <th>千円</th> <th>割合</th> <th>千円</th> <th>割合</th> <th>千円</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td colspan="2">H26</td> <td colspan="2">H27</td> <td colspan="2">H28</td> </tr> <tr> <td>市内産</td> <td>412,379</td> <td>5%</td> <td>436,789</td> <td>5%</td> <td>512,875</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>県内産</td> <td>983,586</td> <td>13%</td> <td>1,082,341</td> <td>13%</td> <td>1,121,607</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>県外産</td> <td>6,461,021</td> <td>82%</td> <td>6,584,139</td> <td>81%</td> <td>6,437,370</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,856,986</td> <td></td> <td>8,103,269</td> <td></td> <td>8,071,852</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="392 1496 1390 1742"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">H29</th> <th colspan="2">H30</th> <th colspan="2">R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内産</td> <td>535,514</td> <td>7%</td> <td>417,856</td> <td>6%</td> <td>385,577</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>県内産</td> <td>983,417</td> <td>13%</td> <td>714,826</td> <td>10%</td> <td>654,437</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>県外産</td> <td>5,921,098</td> <td>80%</td> <td>5,681,002</td> <td>83%</td> <td>5,314,721</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,440,029</td> <td></td> <td>6,813,684</td> <td></td> <td>6,354,735</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※H29年3月、北部市場は柏市場との統合により閉場した</p> <table border="1" data-bbox="392 1792 799 2029"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">R2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市内産</td> <td>410,475</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>県内産</td> <td>1,077,192</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>県外産</td> <td>5,444,683</td> <td>77%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,521,875</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		千円	割合	千円	割合	千円	割合		H26		H27		H28		市内産	412,379	5%	436,789	5%	512,875	6%	県内産	983,586	13%	1,082,341	13%	1,121,607	14%	県外産	6,461,021	82%	6,584,139	81%	6,437,370	80%	合計	7,856,986		8,103,269		8,071,852			H29		H30		R1		市内産	535,514	7%	417,856	6%	385,577	6%	県内産	983,417	13%	714,826	10%	654,437	10%	県外産	5,921,098	80%	5,681,002	83%	5,314,721	84%	合計	7,440,029		6,813,684		6,354,735			R2		市内産	410,475	6%	県内産	1,077,192	17%	県外産	5,444,683	77%	合計	6,521,875	
	千円	割合	千円	割合	千円	割合																																																																																							
	H26		H27		H28																																																																																								
市内産	412,379	5%	436,789	5%	512,875	6%																																																																																							
県内産	983,586	13%	1,082,341	13%	1,121,607	14%																																																																																							
県外産	6,461,021	82%	6,584,139	81%	6,437,370	80%																																																																																							
合計	7,856,986		8,103,269		8,071,852																																																																																								
	H29		H30		R1																																																																																								
市内産	535,514	7%	417,856	6%	385,577	6%																																																																																							
県内産	983,417	13%	714,826	10%	654,437	10%																																																																																							
県外産	5,921,098	80%	5,681,002	83%	5,314,721	84%																																																																																							
合計	7,440,029		6,813,684		6,354,735																																																																																								
	R2																																																																																												
市内産	410,475	6%																																																																																											
県内産	1,077,192	17%																																																																																											
県外産	5,444,683	77%																																																																																											
合計	6,521,875																																																																																												

高橋 治 (生産者)	<ul style="list-style-type: none"> ●公設または民営化であっても、取扱高の減少は大きな問題です。せめて、市場運営がより活性化していく方法をとっていくのはどうか。 ●民設公営であっても、市場を良くしていくためには、思い切って変化しなくてはいけない。 ●市場側の意見や要望も取り入れて考えることも大事。働く場所が楽しくないと、誰もがやる気が出ないのと同じで、市と市場側とでよく話し合うことが大事。
木口 直之 (生産者)	<ul style="list-style-type: none"> ●北部市場が松戸から移転した今、南部市場は松戸で唯一の市場である。松戸の生産者並びに近隣(鎌ヶ谷)の生産者にとって、輸送コストをかけずに出荷が出来ることは非常に経営的にも助かる。 ●今後、耐震補強工事を完成させて、長寿命の市場を卸業者・農業者・消費者が一体となって強化、充実を図っていかねばと考える。
後藤 淳子 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●青果の取扱高が千葉、船橋、柏に比べ住民の差以上に少ない。消費人口が3市に比べ少ないからなのか。社会情勢の要因は、松戸市に限ったことではなく、3市とも共通。市場規模が小さいからなのか。どうすれば、取扱高を増やすことが出来るのか。何が足りないのかを検討していく必要がある。
落合 厚子 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会情勢や流通の多様化により取扱高の減少が明らかに予想されることが分かり、松戸市の財政負担金の削減に向け、何らかの対策が必要だと考える。 ●改正卸売市場法により、法律自体が行政主導から民間主導にシフトしている状況下で、他市場への転送の効率化、青果物の過不足を補うことが必要。それと同時に松戸市の特産物を売り込むことも地域の発展につながるのではないかと。 ●卸売部門業務を徐々に縮小化し、いちごマルシェ(株)の協力を得て、道の駅など食文化の拠点となり松戸の名所となれば素敵。
土屋 佳子 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●審議会から、立地条件を生かし、物流ネットワークを強化した市場をとの意見に賛成です。しかし、プラスαとしての市民にも親しまれるような賑わいのある市場をとすることは必須だと思います。具体案を挙げながら、もう少し審議した方が良くと思います。これを解決すると市場運営費問題も解決の方向へ進むと思います。 ●地場産野菜・果実を販売する道駅のような売場が必要。
桜井 哲司 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●市場を民営化することによって、大手物流会社等を誘致すれば、すぐに取扱高(売上)は増加するだろう。その場合、自分達に都合の良い荷物や野菜以外の物も物流に組み込み、普段取引のある量販店のみ中心になり、販売集荷を行う小さな専門店や飲食店は時間とともに追い出されてしまい、いつか特定の量販と卸売会社物流センターになり、地場野菜等の少量も出荷しづらくなり、他市場に行くしかなくなると思う。 ●そこで、千住青果と松戸市でもう一度矢切地区や東葛飾地区プラス柏辺りのJA始め産地に出荷要請し、千住青果と取引のある量販店や納入業者にも本社から南部市場よりに販売することや、民営化の前に取り組んでほしいところがある。市と

	<p>東京千住とでこのような話し合いはあったのか。</p> <p>⇒(松戸市)</p> <p>卸売業者とは、市場取引活性化に向け、地場産青果物の強化も含め、定期的に意見交換するなど、連携を図っているところです。</p>
松本 正徳 (市場関係)	<p>●松戸市公設地方卸売市場は、昭和 47 年 5 月開設以来、消費者へ安心安全な生鮮食料品の供給をしてきた。卸売業者の東京千住青果(株)としては、多くの松戸市民が利用する南部市場で活気ある状況を作り上げていく。</p> <p>●卸から購入する皆様には、地産地消の推奨のため、松戸市内産青果物などを松戸市内にて消費出来る様に、松戸市内の生産者の青果物の集荷販売をさらに力を入れ、地元の八百屋やスーパーなどに PR して販売してほしい。また、松戸市内の学校や保育園等に地場野菜として提供してほしい。</p>
斉藤 昇 (市場関係)	<p>●近年の青果業界は非常に厳しい経営環境が続いているが、これからも良くなることはないと思う。市場民営化はやむを得ない選択だと思うが、資料によると他の市場の民営化の成功例がでていたが、失敗例はないのか。</p> <p>●当市場が民営化をすれば当然施設会社の「いちごマルシェ」さんも企業でありますから、収益がでなければ、撤退することも予想される。</p> <p>●当然、入場している「東京千住青果」さんも同じような事になる。その場合、松戸市内の小売業者及び零細農家はどのなるか。</p> <p>●小売業者は松戸市内の小中学校・保育所・幼稚園等の納入業者も多く、大型流通に乗らない零細農家への出荷先もなくなるのではないかと。現在赤字もあるなかで、赤字を出さない方策を検討してはどうか。</p>
藤田 寛 (市場関係)	<p>●卸売市場は生鮮流通の大切なインフラであることを大前提の認識として考える必要があり、民設公営という特異な形態であっても、公設市場であることは行政として市民に対しての大きな責務をはたしていることと理解します。取り巻く農業の環境変化、青果物流通の多元化、消費者の構造や食生活の変化を見渡せば卸売市場、特に地方卸売市場の存在意義、価値は小さくなっているようにも見えますが、その意義や価値は生活経済を営む上で重要な分野を担っており、その地域の農業生産を含むすべての経済活動や雇用の創出関連などその効果派生する範囲は大きいものがあります。</p> <p>●大切なインフラといっても年間に 5,000 万円以上の一般会計からの繰り入れがあることに関してその目先の使途内容もちろん見直しできることは削減していくことも重要と考えますが、その支出が将来のどのようなインフラとして果たす機能を有する卸売市場構築につながるのかを地域に根ざした活性化取り組みプランを明確に示し議論する必要性を感じます。その核となるのは卸売市場を構成する卸、仲卸事業者であり新しい時代における卸売市場に求められる機能を網羅し採算性も踏まえたプランニングが優先されることと考えます。</p> <p>●そのプランをもとにこの先の松戸市南部市場の目指す姿を検討する中でより効率的、効果的な施設も含んだ整備、運営を実現するには公設としてなのか、民営と</p>

	<p>して推進していくべきかを判断することが求められるのではないのでしょうか。</p> <p>●審議会の中でも意見にあった市民に親しまれる賑わいのある市場づくりに絡む構想との合算した検討も判断の中には盛り込まれることと思います。</p>
正司 進 (市場関係)	<p>●松戸市の人口が 50 万人近くいる中で、公設市場が民営化になることは反対です。公設という看板を外さないでください。安定した入荷が出来ないと心配です。</p> <p>●北部市場がなくなり、南部市場が頑張ってもらわないと市内の小学校、中学校に青果物の給食の材料を納入している青果業の組合員も心配するのではないか。</p>
芦田 恵一 (市場関係)	<p>●市場の公設維持に伴う松戸市が負担している経費に驚きました。原因を明確にして改善案を急ぐことが必要。</p> <p>●松戸市公設市場としての存在価値として、松戸市内で農業を営んでいる生産者に対して、市場への信頼や将来的な期待を具現化した「公設市場のあり方」を市場は示していくことが必要。またそれに向けて、目標を定めるべき。旧体制の市場経営+今の時代に合う何かが必要。</p> <p>●市場運営の軸である青果市場運営会社のパーパス的なビジョンを聞かせていただき、以下について、青果市場の今後のあり方や展望を発表していただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.松戸市産農作物生産者への取り組み 市内農作物のブランド化など 2.安全安心への取り組み 3.松戸市内の需要に対して、量販店また小売りへ青果物供給の手段 4.松戸市、いちごマルシェとの連携強化 設備の充実 5.空き店舗の対策またかなり老朽化しているなか家賃を下げては <p>●施設所有者のいちごマルシェの市場運営や将来的モデル案など現実的な計画案があるなら聞かせていただきたい。</p> <p>●市、いちごマルシェ、千住青果に対して、市場＝流通と変化するなか、市場運営インフラの未来像など骨子案をお願いしたい。</p>
門倉 義和 (施設会社)	<p>●資料 1 をいただき、読ませていただきました。作成をいただき、ありがとうございます。さて、審議会におけるこれまでの討議や市民、市場関係者の皆様の考えを総合しますと、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松戸市が設置するという公共性を継続 ・市場の設備を最新に ・民間活力を導入し市税の投入を最小限に ・経済活性化、観光資源化も視野に <p>概ねこのようなニーズであることであると理解をしました。このようなニーズと理解してよろしいのか、確認をしたいと存じます。</p> <p>●施設の現状は、当面の安全性確保のための耐震補強工事を進めておりますが、施設全体の抜本的な更新をするわけではなく、ニーズに応えることはできません。ニーズを満たすためには、公共施設への民間活力導入の様々な事例を検討し、都市計画法令等の緩和などを含め、具体的な計画案を策定する必要がありますし、当社は計画案の作成に主体的に協力をいたします。</p>

議題2:南部市場耐震補強工事の進捗状況について

島田 薫 (会長)	<ul style="list-style-type: none"> ●施設会社の耐震工事の遅延については説明がありましたが、施設会社ももう少し情報開示をして欲しいと思っている。 ●冷蔵の設備なども必要になっていますが、株式会社として利益の追求という中で、審議会を通して各界の方々と理解を深めて頂きたいと願っている。
小林 弘明 (副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ●関係者各位のご尽力に感謝申し上げます。
大橋 唯男 (学識)	<ul style="list-style-type: none"> ●現実的な進行状況だ。
高橋 治 (生産者)	<ul style="list-style-type: none"> ●資材の調達など苦労されているかと思いますが、完了予定がつくなど大分努力が見られます。ただ耐震化となると建物全てが含まれるので、民設公営であっても大変。特例として、市でも何か考えてあげることが出来ないか。 ⇒(松戸市) 市の厳しい財政状況から特例は難しいですが、現在、一般的な市場整備に対して、毎年200万円の補助金を支出しているところです。
木口 直之 (生産者)	<ul style="list-style-type: none"> ●今後の経過を観察していく。生産者や JA 関係者に耐震化工事の進捗状況について問われたら、現在の状況を説明することとする。
落合 厚子 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の状況がよくわかりました。
桜井 哲司 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●耐震補強工事は、結構時間がかかるのですね。なかなか前に進んでいないような、コロナの影響もあるのですが、その場で従事している人達は大変ですね。一日も早く補強をしてほしいです。
松本 正徳 (市場関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●南部市場の耐震工事に着工していただき、いちごマルシェ(株)様には、非常に感謝しております。 ●東京千住青果(株)としても、安心安全な事務棟の完成を職員一同、また仲卸事務棟の耐震工事南部市場を利用するものとしても、早期整備をお願いします。
藤田 寛 (市場関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●現時点で運用している市場施設で耐震補強が必要とのことなので、関係ある方々の人命にかかわる危険回避の観点から、速やかに対処いただければと考えます。 ●公、民どちらに帰属する問題という以外に、卸売市場というインフラの緊急整備としての対応をお願いしたいと思います。
芦田 恵一 (市場関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●耐震補強工事は人命に関わることであり、東日本大震災から月日がかなり経つなか、工事を速やかに進めてほしい。古い建物だけにアスベスト問題はあるのでしょうか。 ●補強工事の実際かかる費用を部分的に知りたい。また補強工事は松戸市予算を使っているのか、また配分あるならそこも公開すべき。 ⇒(松戸市) 耐震補強工事は100%施設会社負担です。

	<ul style="list-style-type: none"> ●青果市場耐震補強費用はどのくらい(金額)がかかるのでしょうか。 ●補強工事は一時的なものと考え将来的に建て替えが必要。
門倉 義和 (施設会社)	<ul style="list-style-type: none"> ●2022年4月末の完了を目指し、安全を第一に順調に工事を進めております。 ●ただし、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化しますと、作業員の感染防止のために工事を休止し、工期を延長する可能性もございます。また、世界的な半導体不足に伴う様々な材料、工業製品が不足している影響を受け、工期を延長する可能性もございます。 ●現在のところは、これらの影響を受けておりません。

その他

小林 弘明 (副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ●今後に向けては、R2 卸売市場法改正とコロナ禍という二つの大きなイベントによる影響を具(つぶさ)に捉える情報の収集が有益かと思われます。 ●コロナ禍でスーパーの売り上げ増加、またネットスーパーや EC の伸長が言われる中、例えば商物分離原則の廃止が何らかの影響を及ぼしてはいないでしょうか。 ⇒(松戸市) コロナと商物分離原則の廃止の影響についてはわかりませんが、市場関係者からヒアリングを実施したところ、商物一致の原則の緩和により、産地から直接、小売店へ直送する取引は増加しつつあり、その効果として輸送時間短縮と運搬コスト削減の効果が図られている模様です。
高橋 治 (生産者)	<ul style="list-style-type: none"> ●市場関係者のヒアリング結果を見てみると、今後の南部市場をどのようにしていくかある程度わかるが、もっと踏み込んだ話し合いが必要。
落合 厚子 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●資料1の P3 の「まとめ」で述べられている南部市場の目指している目標に期待したい。
後藤 淳子 (消費者)	<ul style="list-style-type: none"> ●どのようなまちづくりを市は考えているのか。大手の小売店は市場がなくなっても困らないだろうが、どんどん消えていく“やおやさん”にとっては小ロット多品種の品揃えをするためには市場が必要。
松本 正徳 (市場関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●南部市場は、東京千住青果(株)として、松戸市唯一の公設市場であり、生鮮食品を取引しています。公設のため、信用や安心感を持ち、生産者買出人が青果物を安定的に購入できる公的な場所として運営しています。また災害時には物資集配拠点にもなります。
藤田 寛 (市場関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●時代の変化が以前より早まる中、コロナによる社会変化が見えづらくなっていることが加わっている現状を踏まえ、より広範囲の見地からの検討が必要なこととそのスピードをさらに加速させ実現させることが必要と考えます。
芦田 恵一 (市場関係)	<ul style="list-style-type: none"> ●松戸市公設南部市場の存在は公設民営であり、公設を維持するならば、市として審議する時期ではないか。 ●公設市場の継続なら、市は公設市場としての地域への貢献案を示し、先頭にたってほしい。

